

倶多楽の火山活動解説資料（平成30年10月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1～4、図5-①）

12日に陸上自衛隊第7師団の協力により上空からの観測を実施しました。日和山山頂爆裂火口、大湯沼爆裂火口及び地獄谷爆裂火口の噴気や火口の状況に特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、前回（2017年8月）の観測で、大湯沼東岸の湯の噴き上げに伴う高温域が確認されましたが、今回の観測では確認されませんでした。

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図5-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図5-③）

GNSS²⁾ 連続観測では、2017年7月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられています。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（平成30年11月分）は平成30年12月10日に発表する予定です。



図 1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（10月30日、414m山監視カメラによる）



図 2 倶多楽 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

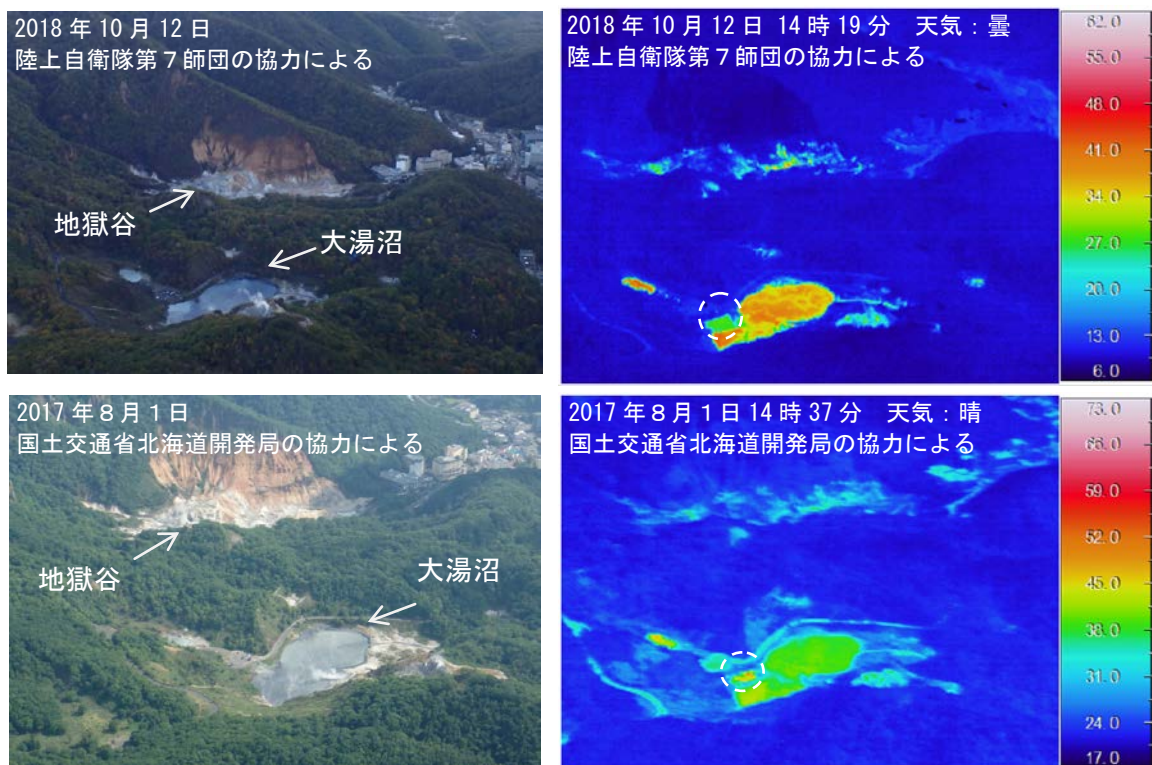


図 3 倶多楽 地獄谷・大湯沼爆裂火口周辺の地表面温度分布

上段：北側上空（図 2 の①）から撮影 下段：北西側上空（図 2 の②）から撮影
・ 前回の観測でみられた大湯沼爆裂火口の北東岸の高温部（破線部）は、今回の観測では確認されませんでした。

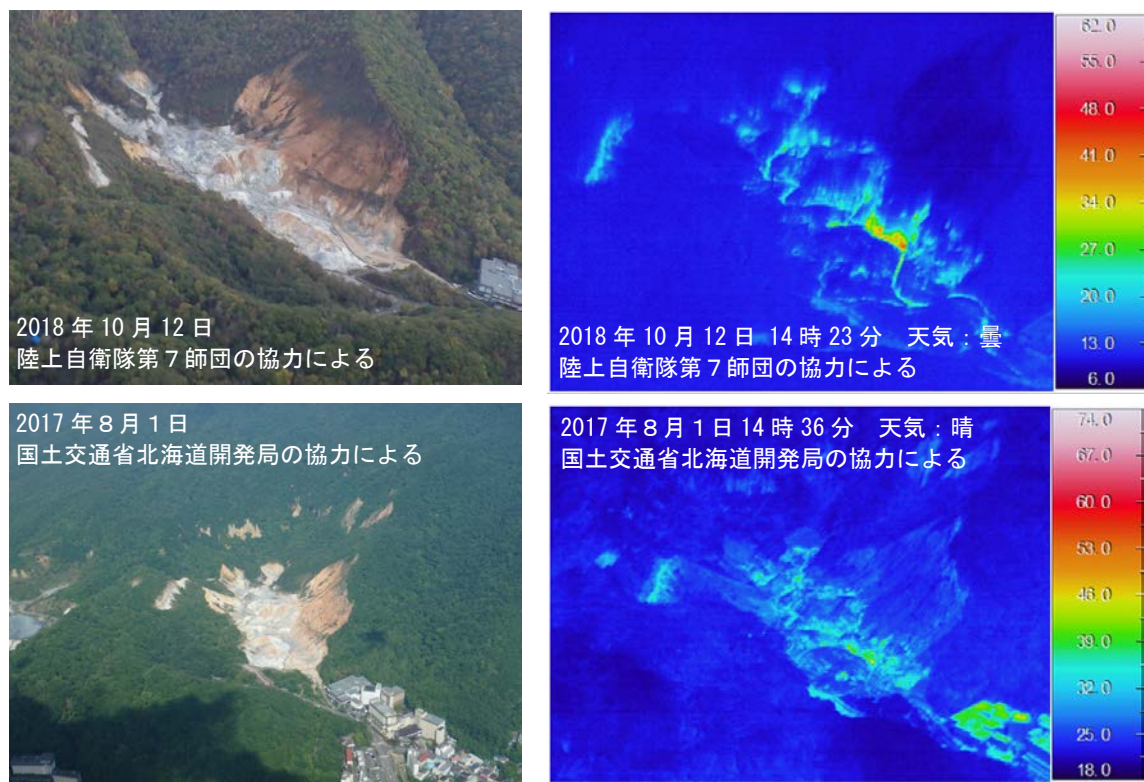


図 4 倶多楽 地獄谷爆裂火口の地表面温度分布

上段：西側上空（図 2 の③）から撮影 下段：西側上空（図 2 の④）から撮影
・ 地獄谷爆裂火口の噴気や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

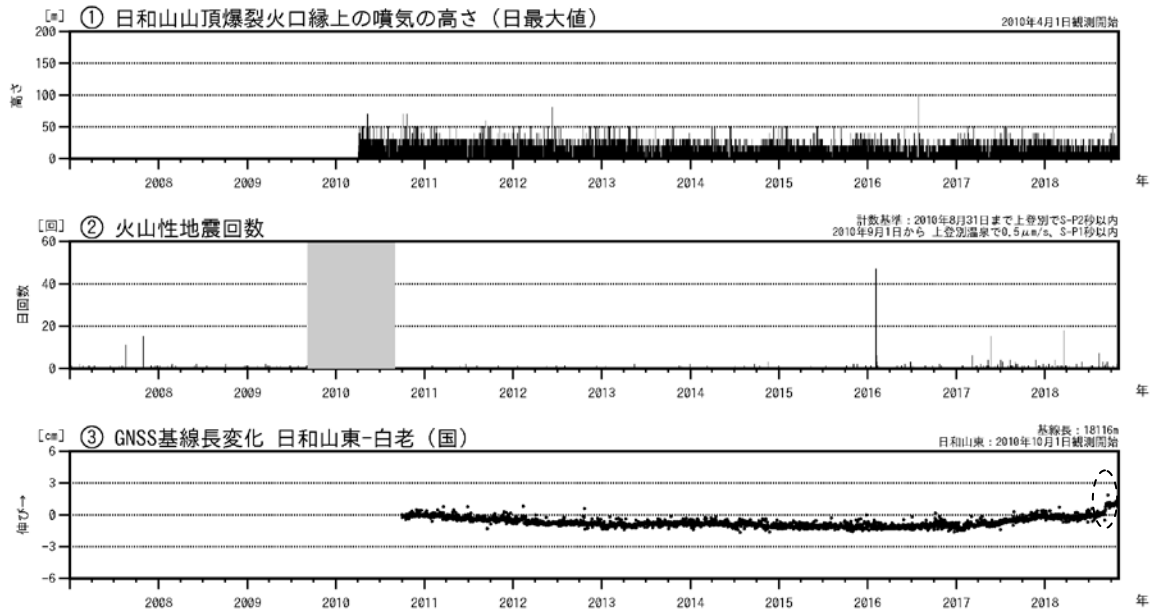


図5 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2018年10月）

- ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ③のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ③のGNSS基線ではわずかな伸びがみられていますが、表面現象や地震活動に変化は認められません。
- ③のGNSS基線の2018年9月上旬の変化（破線部）は「平成30年北海道胆振東部地震」の影響と考えられます。

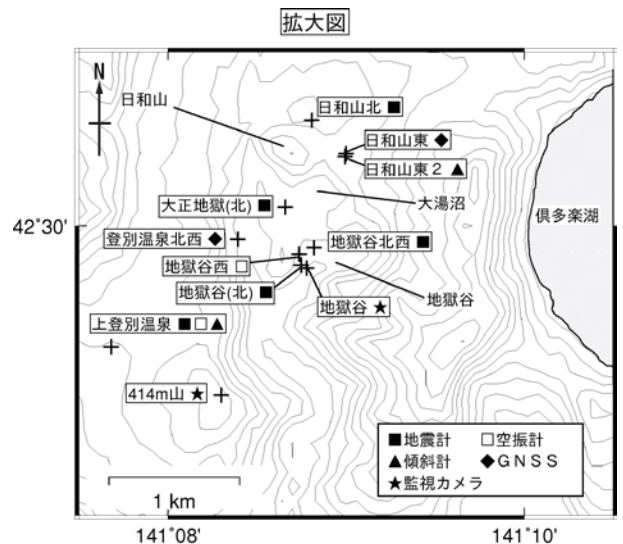
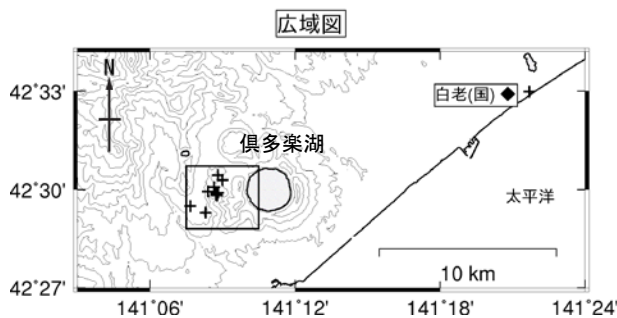
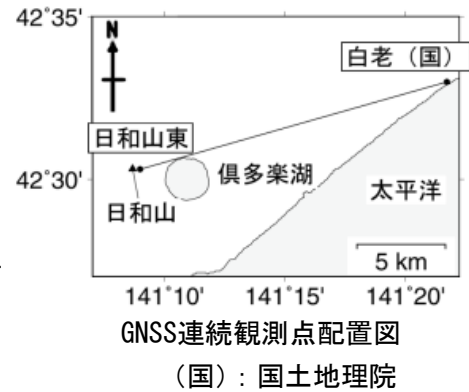


図6 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。
+印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院
（北）：北海道大学